



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

— 2014年 —
創立136年

2014年(平成26年)

3月18日

第10号

梅花女子大学 チャペル・ニュース Chapel News

発行

梅花女子大学宗教部

〒567-8578

茨木市宿久庄2-19-5

072-643-6221(代)

072-643-8997

E-mail skb@baika.ac.jp

澤山記念館1階

「梅花女子大学 開学50周年に向かって」

梅花学園理事長 小坂賢一郎



明日はクリスマススイブ。その前日にこの場でお話しさせていただきました。皆すことをととも光栄に思います。皆さまと共にクリスマスをお祝いしたいと思います。

この茨木ガーデンキャンパスに梅花女子大学が設立されましたのは、今から約50年前であり、梅花女子大学学舎献堂式ならびに第一回入学式が1964(昭和39)年5月9日、挙行されました。来春には開学50周年を迎えます。

また、梅花学園は今から135年前の1878(明治11)年1月に、大阪土佐堀裏町で梅花女学校として創立されました。さて、学園創立の中心人物である澤山保羅は、1852

(嘉永5)年、長州(現在の山口市)吉敷村に誕生し、馬之進と命名されました。14歳となった馬之進は、江戸幕府の第二次長州征伐の折には、長州藩の良城隊の一員として江戸幕府軍と戦ったのであります。

さらに歴史を紐解いてみます。1868(明治元)年、澤山が16歳の時に、明治維新のさきがけともいう、戊辰戦争が始まりました。そして時代は激しく動き、日本は一気に近代化の道をたどることになります。その約4年後の1872(明治5)年、澤山はアメリカへ渡り、ノースウエスタン大学で学び、アメリカのキリスト教プロテスタント、会衆派教会エバニストン第一組合教会でパカード牧師により洗礼を受けるのであります。そして、澤山を支援してくれたH. H. レビット宣教師の進めもあり、澤山は日本での宣教を

決意し、1876(明治9)年、24歳で日本に帰国するのであります。

日本に帰国後、澤山は浪花教会(公会)の設立など、日本のキリスト教

の礎を作るため、同志社の新島襄らと共に献身的に布教活動を行いました。

そして、キリスト教の伝道を行う一方で、澤山は当時の社会の女子に対する偏見を憂い、1878(明治11)年1月、成瀬仁蔵らの協力を得て梅花女学校を設立したのであります。浪花公会(教会)と梅本公会(教会)のキリスト教信者の有志の努力により、大阪における最初の女学校として、大阪府知事から認可を受け、生徒15名をもって開校式を行ったのであります。

京都の同志社大学、神戸の神戸女学院大学の創立が1875(明治8)年であり、大阪の梅花女子大学とあわせて3大学は共にキリスト教プロテスタント、会衆派を建学の精神とする大学として、明治時代の初期に創立された全国屈指の歴史と伝統ある大学と言うことになりました。

梅花女学校創立当時の1878(明治11)年は、前年の1877(明治10)年に明治維新の立役者である西郷隆盛率いる薩摩軍が政府軍に敗退し、西郷は自決し、西南戦争が終結し、内乱がほぼ終わった年であり、ついで、梅花女学校が生まれました。日本が明治維新を経て近代国家として文明開化が今まさに始ま

ろうとしている頃であります。したがって、当時は、日本が、現在とは比較にならない、混沌とした時代であり、先行き不透明な時代でもありました。

また、明治初期は封建時代の名残で、女性蔑視の時代でもありました。澤山は、日本の将来のため、社会改革の第一歩として、社会の母ともいべき女性に、キリスト教精神に基づく愛の教育を授けることの必要性を痛感したのであります。また、その女子教育において大きく欠けているのが知的教育であるとの思いを持ち、大阪で最初の女学校の開設を目指したのであります。

梅花女学校開校当時のお話です。開校のあくる年の1879（明治12）年、新たな校舎改築を祝って、開業式が行われました。このとき、同志社の新島 襄が次のように祝辞を述べています。「女子教育は社会の母の母なり」と。また「女子教育の如きはもつとも欠くべからず」とも述べています。さらに「金子を与えて結婚せしめるよりは、良き教育を与え、よき実働（今でいう専門力）をつけて世に出さしめるに如かず」と。つまり、女子に良い教育をし、専門力をつけて社会に送り出す大切さを述べています。

さて、その後の梅花学園はといいますと、同志社や神戸女学院と違い、外国の宣教師に頼らないで自給、自立の精神を重んじたため、財政事情は大変厳しく、女学校開設当初の学校経営は苦難の連続でありました。そのような状況の中でも、澤山と同郷の後輩であり、実質的な学園の責任者である、成瀬仁蔵（後の日本女子大学の創立者）は、澤山の精神を生かし、他者への愛と奉仕の精神を備える女性の育成を目指し、自主自立を重んじた学園運営を推進したのであります。が、財政事情のみならず、外国人教師を含む、他の職員たちと激しく対立することもたびたびあり、大変苦勞したようであります。

また、澤山保羅が若くして亡くなったことも学園にとっては厳しい経営を余儀なくされる要因の一つと言えます。澤山保羅は、1887（明治20）年3月27日（日）午前9時10分になくなりました。享年34歳でした。澤山は、遺稿の中で、「主のために尽くす婦人の職分」として、「一人ひとりに欠かすことの出来ない使命がある」ことを訴えています。また、「主にあつて、苦難をともにし、勇気をもち尊敬と相互の援助によって、この社会に貢献する女性の出現

を祈り望んだ」ともあります。

3月29日の葬儀にはD Cグリーン氏や新島 襄も参列し、グリーン氏は告別の辞で「澤山氏は常に為さんと欲せば必ず為すの精神に富む、かつ、良心の鋭敏なること驚くに堪へたり」と述べたのであります。まさに、澤山の短い人生は数々の試練から逃げないで、まっすぐ受け止め、良心に基づき、すべての人々のため戦い続けた人生と言えるのではないのでしょうか。

さて、時代は変わり、日本にとって最悪の第二次世界大戦が始まりました。梅花学園にとつても、大きな苦難が待ち受けていました。国民が、戦争中は、衣食住もままならない貧困生活を強いられました。もちろんのこと、私立学校にとつて命とも言ふべき、建学の精神が、国家により弾圧されたのであります。アメリカやイギリスら敵国の宗教として、キリスト教は弾圧され、国家により寄付行為第一章からキリスト教の文字が抹殺されたのであります。

そして、1945（昭和20）年。日本は敗戦。終戦を迎え、それまでとまったく違った民主主義国家として新たなスタートをきったのであります。と同時に、梅花学園は再び、建学の精神の要とも言うべき寄付行

為第一章「キリスト教精神を持つて基本とし」が復活し、創立当初の精神を取り戻したのであります。

このように梅花学園は創立以来、数々の苦難の道乗り越え、ようやく、敗戦後、豊中校地の復興に着手するのであります。そして、戦後の新しい教育体制（学制改革）の下、1947（昭和22）年には梅花中学が、1948（昭和23）年には梅花高等学校が設置され、1950（昭和25）年には短期大学（英語科）が開設されたのであります。

創立以来、波乱万丈の歴史を刻んできました梅花学園にとつて、大きな出来事が1956（昭和31）年にありました。それは、茨木市宿久庄に在住の田中格太郎、とら夫妻から、現在の茨木校地約4000坪が寄附されたのであります。そのおかげで、周辺の土地をさらに購入し（現在は約19200坪、約63600㎡）、茨木の地に1964（昭和39）年、ついに念願の4年制の女子大学（文学部に日本文学科・英米文学科）が開設されたのであります。秋色深まった11月2日、梅花女子大学の開学を対外的に披露するための開学式が挙行され、同志社大学学長上野直蔵氏（後の梅花学園理事長）が来賓代表として祝辞を述べられ、女子大



同窓会コーラスグループ エコー梅花による
校歌・学園歌の合唱

学の前途を祝福するとともに、学園の府としての女子大学の存在意義と責任の重大さを強調されたのであります。ちょうど、今から約50年前のことであります。

来年、学園創立136周年、大学設立50周年を迎える我々にとつて、改めて、数々の苦難に立ち向かった澤山保羅先生を始め、先人たちに感謝申しあげるとともに、勉学に励み梅花女子大学の社会的評価を高めてくれた、卒業生に心から敬意を表したいと思ひます。

ところで、梅花女子大学開学50周年を向かえる我々にとつて、それは、これからの新しい時代をいかに

進めばよいのか。創立者澤山保羅につながる、我々学生や教職員は、「梅花人」として、社会や大学に対し、いかに貢献するべきか。とくに、生涯、梅花女子大学卒業生として生きていく学生の皆さんにとつて、母校が誇りやプライドの持てる大学として発展するにはどうすればよいのか。その答えはひとつ。ずばり、学生の皆さん自身にあります。卒業生にあります。つまり、梅花女子大学が、創立者の期待する誠の教育を行い、それを学生が十分いかし、社会で活躍することにあります。話は少し変わりますが、最近「女子力」という言葉を「耳」にしたり、女性誌で「目」にしたりすることが良くあります。そもそも「女子」と言う言葉を広辞苑で調べると「女の子」「むすめ」という意味が先にきて、どちらかと言えば「かわいい」あるいは「弱い」という印象があります。したがって、かつては女子大学といえは、おしとやかな良妻賢母を育てる学校というイメージがありました。ところが、最近では、「女子大学」のイメージが変わりつつあります。「女子会」「女子力アップ」など、「女子」という言葉のもつ意味やニュアンスが変わってきたことが理由のひとつかもしれません。つま

り、「女子」という言葉には、男子に負けない元気ではつらつといった気分が伝わってきます。美しいだけでなく、男性に負けないほど仕事をしつかりこなす魅力的な女性を意味するようになりつつあります。企業の人事担当に聞くと、ほとんどとっていいほど、「最近の若いひとは、男性より女性の方がしつかりしている」といいます。国も国力の低下を防ぐために、本格的に女性の社会進出をうながす政策をとりつつあります。日本の歴史始まって以来の人口減少期を迎えた今、人口の半数を占める、男性に負けない感性や能力を持つ女性の力を求めるのは当然のことです。学園創立時の135年前と社会状況は違いますが、再び女性を基盤にした社会改革の幕開けです。再び、女子教育の時代の到来です。いよいよ梅花女子大学の出番です。

創立時の建学の精神を大切にしながらも、新しい時代に向かつて梅花女子大学は変わらなければなりません。社会のリーダーとして、仕事が出来、真にお洒落な女性を社会に送り出す大学にならなければなりません。これからの次代を背負う学生の皆さん。ぜひ、各学科の学びを通してしつかりと専門力を高めていた

だきたい。また、大学全体の学びを通して幅広い教養と問題発見解決力をつけてください。もちろん、根底には梅花女子大学生らしい、キリスト教主義に基づく温かい思いやりのある心が脈々と流れている女性であることは言うまでもありません。

最後になりましたが、私は、梅花女子大学にとつて、何より大切なことは、「一人残らず」ということだと思います。一部の学生だけが優れている大学では駄目であるということです。梅花女子大学の学生は全員、「チャレンジ精神溢れるエレガントな学生」でなければなりません。また、そのために、教職員は建学の精神に基づき「一人残らず」全員が学生さんと真剣に向き合わなければなりません。社会が期待する大学に向かつて、すべての学生教職員がともに努力すれば、日本トップクラスの女子大学になることは夢ではないと信じています。

創立以来、我々がもつともっと強くなるようにと、神様が梅花学園に与えられた数々の試練をしつかり受け止めて、皆さんと共に、梅花学園創立200周年、梅花女子大学開学100周年に向けて、戦い続けたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

「澤山保羅先生と彼をめぐる人々」

梅花学園学園長 原 忠和



梅花学園が澤山保羅先生によって創立されて136年になりますが、一口に136年といっても、それは長い歴史です。その間に神様の守りと幾多の人々の苦勞と祈りがありました。まず、いままで学園を保つてくださった神様に感謝すると共に、幾多の人々の流した汗と祈りに敬意を表したいと思います。幾多の人々が期せずして神に用いられて、梅花学園を形作ってきたことに思いを馳せたいと思います。時間の関係で、その幾多の人々の全部に触れることはできませんが、一部の人々を取り上げて考えて見たいと思います。

澤山先生は明治時代の牧師の中で最も敬虔な人と云われていました。貧しさと同病気との闘いの中で純粋な聖書の信仰に生きた方でした。大阪

の聖人とさえいわれました。ある後輩牧師が、「困窮と病気の中にあつて、人に力を与え慰めをあたえ、希望を与えた人であつた。一つの事に集中した人の生涯がどれほど有力なものか」と尊敬の念を表しています。こうした澤山先生の一途さと真剣さはどこで養われたのでしょうか。

澤山先生は長州(山口県)の出身、幼いころに憲章館という武士の寺子屋で学び、第2次征長の役では14歳にして鼓手として参加したので、幼少から武士道に通じていたと思われる。そこで培われた真実と誠が生涯を通じて保たれていたと考えますが、その真実と誠が人との交わりの中で増幅されたと思います。20歳から24歳の多感な時代をアメリカで過ごされました。私費留学ではありましたが、アメリカで交わされた友情によって大きく成長されたと思われる。

18歳の時、意を決して神戸に出てグリーン宣教師のところに、英語を学ぶ目的で教えを乞いました。間もなく信頼を博してグリーン宅に下

宿。グリーン宣教師は澤山先生に留学の志があることを知って、兄サムエル・グリーンを紹介、旅費まで工面してくださっています。おおらかに人を信じるひとでした。

渡米後まずエバンストン(シカゴの近く)のグリーン家に寄宿しましたが、一年後故あつてグリーン兄弟ボーテル家(弁護士)に寄宿しました。このボーテル家が澤山先生のアメリカ在居中、物心共にささえてくださったのです。その慈愛にみちた親切さが澤山先生に大きな影響を与えました。病弱で在米中などか入院しましたが、その都度慰めと慈愛あふれた手紙を送り、費用を払い、「入用なものなんでもいってくれ、出来る限りのことをするから」と書き送っています。病床にあつて不安・孤独感が慰められ、澤山先生の支えになったと考えられます。

2年経つた1874年、澤山先生は日本領事館に就職方を頼みました。そして、ていよく断られるのです。明治新政府は長州の人々を多く雇用しましたが、私費留学生は義務もない代わり保証もなかったのです。澤山先生は失意の底にあつたと考えられます。その時にレビット宣教師に逢つたのです。

レビット先生は大阪への宣教師でしたが、1874(明治7)年アメ

リカに病氣療養と結婚のため帰つて来ていて、エバンストンのボーテル家で澤山先生と出会いました。そして日本の救いのための宣教の熱意が澤山先生の心を動かしました。日本に帰って伝道することこそ自分の使命であることを自覚したのです。「外国人が生活を犠牲にして宣教師として日本に渡つて来ている。母国の人々の状態に自分が無関心でいられないようか。」

後にレビット宣教師が書いています。「澤山は決心してから、その仕事の気高さによって高められ、活気づけられたようであつた。神への奉仕に身を焼き尽くすほどの熱意をもって従事した。」

まわりの人たちは、まだ数年神学の勉強をしてからと思つていたし、またそう勧めもしたのですが、澤山先生は自分の病弱の健康を考えてのことでしょうか、時を急がれたと考えられます。事実2年後、1876(明治9)年に帰国されてから11年、梅花女学校を創立されてからは9年経つて永眠されました。日本伝道を決意されてから2年、病弱な健康を駆使しながら、準備に費やされたのです。

その2年間バックカード牧師(エバンストン第一組合教会牧師)に師事して聖書研究に取り組みました。そ

の間のことについて、後にパッカー牧師が書いておられます。「澤山の中には言葉で表されない霊が認められた。何ものかをもっている。単純で素朴で純真にキリストに生きる性格。短い生涯ながら日本のキリスト教に重要な位置を占める存在。わたしにとって生涯の教訓、祝福であった。」

その聖書研究において、澤山先生が最も感化されたのは使徒パウロでした。自らの新生を自覚して名前を馬之進から保羅に改めました。使徒パウロはイエスの直弟子ではないのですが、霊のキリストに出会って改心した人、新約聖書の中の手紙の半分を書いた人です。伝道に対する一途さ、鋭敏な良心、自己犠牲の精神、誠意の人でした。改名は、そのパウロに倣いたいという澤山先生の決意の表れでした。保羅という漢字は中国語訳聖書の言葉です。

使徒パウロの生き方は澤山先生の生まれ持った武士道の真実と誠に通じるものでした。澤山先生の生まれ持った性格がエバンストンで増幅されたのです。

なおエバンストン教会が澤山先生を助けるために1889（明治22）年から2年間プール女史を英語教師として梅花女学校に派遣しているのは、澤山先生に対する信頼と厚情の

表れと考えられます。

スクール・モットーの「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」（澤山先生の愛した聖句）もきつこうした人々との交わりの中で培われたと考えるのです。澤山先生と、これらの人々との出会いは、縁とも云うことができます。縁という表現で表される、人の知恵を超えて働く力を、聖書では神のみ旨と説明するのです。神のみ旨によって出会い、交わり、神さまの目的のために用いられたというのです。澤山先生がエバンストンの教会の敬虔さと真摯な生活の中で4年間を過ごして、その人々の友情に養われたのも、神のみ旨でした。レビット宣教師が失意の澤山先生に出会って日本の伝道について熱い思いで語り合ったのも神の意志に沿うものでした。これらの人々の厚意と友情に支えられて、澤山先生が生き、そして梅花女学校に結実したのです。梅花学園はこれらの証人に囲まれて成立し、保たれてきています。

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。」

（ローマの信徒への手紙 11章36節）

「与えられる人になりましたよっ」

梅花女子大学食文化学部助教

北村 伊都子



「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

マタイによる福音書 7章12節

この言葉の大切さというものをしみじみとかみしめたのは大学に入った後、ずいぶん経ってからのことです。ご紹介にありましたように、私はこの梅花女子大学の卒業生です。卒業したのは、文学部英米文学科、今の学部でいえば文化表現学部国際英語学科にあたります。学生の時は、「人に何かしてあげるなんてちよっと損じゃない、だってしてもらう方が得じゃない」と考えていました。転機が来たのは3年生の終

り、日本語教員コースの教育実習で中国の上海にある上海外国語大学に行った時です。

日本語教員としての教育実習は、日本語を外国人の方にお教えるという2週間の実習でした。教育実習自体、大変なところに加え、慣れない海外での寮生活に疲れ果て、様々なことに文句を言い始めた私は、現地で教鞭をとっていらつしやる先生から「あなたは自分自身がどれだけ恵まれているかわかりますか。確かに日本で生活しているような環境ではないかもしれませんが、中国の人から見ると、そして世界の人から見るとあなたはどれほど贅沢をし、恵まれているか気づいていますか？人にしてもらっているほど、何かにしてあげていきますか」と言葉がけをいただき、初めて自分は様々な面で恵まれていること、人に何かしてあげることが実感しました。

その後、就職活動が始まった時、

自分は何ができるのだろうか？と考えた私は、「せっかくなので上海で気づいた、何か人にしてあげられることはないだろうか」と考えました。してあげることと言っても、ボランティアだと生活のためのお金が貰えないので正直なところ困ります。他に一体何があるのか、一生懸命考えましたがわからなかった中で、キャリア支援部に行き、相談しました。自分のやりたいと思う仕事は、必ずしも自分ができる仕事とは限りませんし、自分に合っている仕事とも限りません。それを客観的にアドバイス下さるのがキャリア支援部でした。アドバイスをいただいた結果、航空会社のCAとして働くことになりました。CAの仕事は華やかなイメージがあるのではないのでしょうか。見た目以上にハードなものではありますけれども、その仕事の中で私は自分には一体何ができるのか、どうやったらお客様は喜んで下さるのかということを中心に考える日々を過ごしました。

阪神大震災の時、大阪から神戸へ行くこととして阪神高速道路は倒れ、電車は動きませんでした。陸路では救援物資を届けたり、人を助けに行くことが難しかった為、レスキューフライトで飛び、大阪から広島へたくさんの人と物を、道路がそれほど壊れていなかった広島側から神戸へ運ぶお手伝いをしました。そして東日本大震災の時は、CAのお仕事を辞めていましたのでフライトでのお手伝いはできませんが、何か出来ることはないかと友人と相談し、洋服などたくさん送りました。こんなふうには何かできることはないかと、考えて過ごす日々を送っています。

また、日常でも身近な人の為に気をつけたことがあります。それは飛行機に乗っている間、航空機事故のことがニュースで流れないか、家族は実はヒヤヒヤしています。ですから乗務から無事に帰ってきた時に、心配している家族に対し元気な顔を見せて帰ることができるよう気をつけましたし、つかの間のお休みの間を友達や家族で大事に過ごすようにも気をつけました。

そして今、私がお仕事をさせて頂いているのも本当に恵まれたチャンスですが、自分がこの大で学んだ、たくさんのものを少しでもお返しできるかもしれないと思つたので、お引き受けしました。皆さん、考えてください。皆さんは何ができますか。「できることなんてない」と思っているかもしれないが、小さなことでもたくさんあります。皆さんの手助けを待っている人が、世の中にはたくさんいます。まずは何かできそうなお仕事でも見つかつたら、是非やってみてください。そして周りの人からいろんな機会や恵みを皆さん自身を受けていることに、感謝してください。女性できちんと教育をうけることができている皆さんは、日本の中でも世界の中でも恵まれた存在です。是非そのことに気づいて感謝の気持ちを持ってください。そして何かできることが見つかったら、是非行動してください。そして与えられる人になつてください。してもらえばつかりではなく、何かをしてあげられる、与えられる人になつてください。そうすれば、してもらう時の喜び以上の楽しさや喜びが、きっとみなさんの胸に残ります。是非、そういう喜びを感じて人生をより豊かにしていただきたいと思えます。皆さん、一緒に与えられる人になりましょう。



学園創立136周年
記念礼拝及び
澤山保羅先生
墓前祈禱会

2014年1月18日(土) 澤山記念館チャペル(右)・大阪市設南霊園(左)

クリスマス・ツリー点灯式

2013年11月14日(木)
澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下



学園クリスマス標語

—2013年度 クリスマス標語—
クリスマスのよろこび



大学(心理こども学部・文化表現学部) クリスマス礼拝

2013年12月19日(木)
澤山記念館チャペル



大学(看護学部・食文化学部)・短期大学部 クリスマス礼拝

2013年12月16日(月)
澤山記念館チャペル



クリスマス・イブニング2013

「クリスマス礼拝」
2013年12月21日(土)
澤山記念館チャペル



チャペル・アワー

小坂理事長奨励「梅花女子大学開学50周年に向かって」
2013年12月23日(月)
澤山記念館チャペル



梅花女子大学情報メディア学科
ファッションビジネスコース誕生記念

特別礼拝「女性と仕事」

ファッションデザイナー コシノヒロコ



ハレルヤ！

以前、NHKの朝のドラマ・カーネーションの中でも扱われていたが、私の母の幼少期は男が働いて女性が家を守る時代でした。その時代に母は働く事に非常に興味を持ち、ミシンと言う小さな機械を通じて、女性が働く事を自覚しました。祖父は呉服屋を営んでおりましたが、このやり方を見ていて、これは新しい時代の着物ではない。新しい洋服を作っていくという女性でないと考えられない事を考え出しました。

私は小さい時から絵を描くという

事が大好きでした。絵を描いて人生を開拓して行く。と考えました。さて、母の子育ての教育のモットーとは何でしょうか。それは子供達をほったらかす事、そして子供が生き抜く事を自分で考える事、そして勝つ事でした。とにかく姉妹はライバル意識が大事でした。

ところで、皆さんには学校を卒業し、将来必ず仕事を持つ事が大切ですが、仕事は義務感でやっては駄目です。女性は生活の中で自分が一番興味のある事、やりたい事を仕事にして行くべきです。例えば、お洒落。今日はどんな服を着てみたい。あんな風にお洒落してみたい。この発想から、私は服飾界に入ったのですが、これは男性には考えられないと言ふ事は私には最高に幸せだと思います。実際には絵描きの夢を断念し、母の跡継ぎをする事になったけれども、母と同じ事は絶対にやりたくないかったです。自分ならではの世界を創りたかった。それがデザイナーだったのです。実は、皆さんも仕

事のイメージが頭の中にあるのです。何をしなければならぬか、他人からも自分でも決めつけたら駄目ですよ。人生に目的を持つ事です。人生に目的を持つ事はとっても幸せな事です。

私が常に教会に通い学んで来た事は、神様から使命を与えられる事。あなたでないと出来ない事。それは何か、それはその人から生まれます。だから、どうやったら真剣に自分の才能や、やりたい事を認めてもらい、そして、人に喜んでもらえるような事が出来るのか、これを考える事が誠に大切です。生きて行くうえで大切な事は何か、ただ仕事をすればよいというのではなくて、いかに多くの人達と一緒に生活し、人に求められる人でないかつまらないという事です。求められる事は、自分しか出来ない事を見つけ出すという事です。見つけ出す事が出来る人と、それが出来ない人がいます。出来る人は何をしているかと言ふと、自分の好きな事を見極めながら努力する人です。努力すると言ふ事は、簡単な事ではありません。最初は苦しいです。何をやっても。努力しろ努力しろと言われるけれども、好きじゃないと出来ません。いかにそれが好きな事でも最初はそれを仕事にする事は考えられません。不思議

とやる内に段々とそれが好きになります。そしてそれが本当に好きになって来ます。私が人生を振り返ってみて随分辛い事も山ほどありました。仕事は決して生優しくありません。けれども、仕事をしている人と仕事をしていない人との差を我々の年齢で見比べた時に、大変な道を歩んで自分の仕事を自分のものにした時に、いかに人間的に満たされているか。今、あなた達はととても若く、何も考えられないかもしれないけれども、あなた達がお母さんやお祖母さんの年齢になった時にいきいきと輝いて一生を終えられるか。これが大切な事です。この大きな人生の目的を持って生きられるかどうかで人間の値打ちが全然違ってくるのです。

私達姉妹三人は同じ仕事を持ちました。三人ともファッションデザイナーです。その度に本当に喧嘩をしました。妹のジュンコが先に装苑賞をとりました。これはファッションデザイナーとして一番の憧れの賞です。その時の私の悔しさと言った、もう死んでやるうかな、とそれぐらい追い詰められた事もありましたが、あの時の苦しみが今になって力になっていると思います。苦労や苦しみについて、神様は聖書の中で言っています。神様は試練を与えま

す。しかし、神様の試練は下の下ま
で落とさない。その試練を自分のも
のにしてそして力になっていくよう
に神様は恵んでくれるのです。そう
いう教育を、私は教会によって教育
されて来ました。神様の教育は、ど
んなに私たちが大喧嘩しても神様の
筋道が一本繋がる。不思議な事です
が、これは母が死ぬまでそうではし
た。使徒言行録 20章35節には『受
けるよりは与える方が幸いである』
とあります。これはまさに母がモッ
トーとして生きて来た言葉です。人
に対して一生懸命に尽くす事、それ
は受ける事よりも与える事の方が幸
せである。つまり私達は美しい服を
創って美しい美というものを人々に
与えながらそこに豊かな気持ちにな
って与えられる。そしてその人から
「ヒロコさんありがとう。この間の
服とってもよかったよ」と言っても
らえる。私は洋服を買ってもらった
のだから、本当にありがとうござい
ます。と言いますが、お金以上のも
のを与えられる。これによってとて
も楽しい思いをしたり大勢の人から
褒められたり、それによってもっと
自分を高めてお洒落してもっと大勢
の人と交わり、学び、皆から敬われ、
何て幸せなんだろう。たった一枚の
服でそこまで本当に人々の心を打つ
洋服を創らなければと思います。

私が若い時は少しでも目立つよう
な洋服を創りたいと考えていました
が、今は違います。神様に教えられ
た言葉は「心から輝けるようなそん
な服を私達が創らなければならな
い」その為にはどのような気持ちで
デザインをすればよいのか。ポイン
トはそこなんです。決して表向き
のカッコよさだけではないのです。
その人がそれを自分の体に着る事
によって何故か、幸せ感を感じて頂
けるような私達はそういった人々の
気持ちを本当にいかせられるよう
一つの手だてとなるファッションを
創って行きたいと思っています。これ
は私が神様から与えられた使命だ
と申しております。ですから神様は私
に使命を与えている間は決して私
に召されたい。まだお前には使命
があるぞと、仰っているならば、私
は元気でいいデザインが出来ると思
うのです。

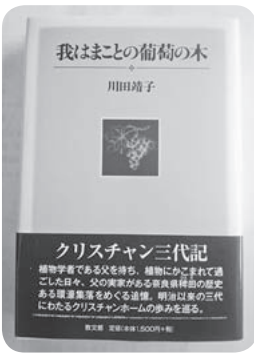
今は皆さんがファッションビジネ
スコースにお入りになって洋服とい
うものを通じてご自分の仕事、将来
の目的をこれから果たそうとされて
いるのですから、やはり誰よりも素
敵な洋服のデザインをしたいと思っ
ている人が沢山いるでしょうね。ま
だまだ将来何がやりたいかわからな
い子達もいると思います。けれど
も、一日でも早く自分がやりたいと
いう目的を見つけたら、その時点で
勝ちなのです。ぼっとして人生を送
るのも確かにそれも一つの人生かも
わかりませんが、でも喜びが違いま
す。決して楽しい事ばかりではあり
ません。けれども、楽しいだけの人
生に本当の喜びはないのです。一つ
のことを完全に自分の物にして行く
為には、人よりも何倍も何倍も努力
して初めて大きな喜びを獲得出来る
のです。そういう使命を神は与えよ
うとしているんです。それを一人ひ
とりがよく自覚して自分を大切に
し、仕事に従事して行く。この心構
えが大切なのです。私でないとな
ない事は何だろう。それをよく考え
て自分の個性を大切にしたい。
それによって何をどうすればよいか
見えて来ます。

私は祈りながら常に事を始めま
す。この世の中には神も何もないと
いう人がいます。私は、自分の力だ
けではなく神の力を信じて生きてい
るのです。だから何も恐くないので
す。やりたいと思う事はほとんどや
りなさい。せっかくこの大学に入
学したので、皆様、神様を信じ
て自分の将来を見つめて素晴らし
い、いい仕事が出来るとい女性にな
ってください。ここに、この大学を
出た意味がある訳ですよ。この大学
は、普通の大学とは違います。神様

を信じる者はいかに幸いかな。と言
う事です。この幸いとは、様々な事
を含みます。当然、試練もあります。
しかし、大きな使命に立たされた時
に、必ずやその人は、いかされて行
きます。皆さん、これを体験して
ください。但し、そのきっかけをつ
くるのはあなた達ですよ。決して人様
も神様も与えてくれません。自分が
見つけ出さなければ駄目。それによ
って祈りながらやっていると、必ず
自分の思うような素晴らしい人生を
迎える事が出来るのです。これは私
が実際に体験して来ました。神を信
じて祈る事の素晴らしさ。ぜひ、そ
れを皆さんで体験して頂きたいと思
います。今日は神様と私、そして仕
事、そしてあなた達のこれからの将
来の心構え、そんな事をちよっとお
話しさせて頂きました。皆さん、あ
りがとう。



9月30日(月) 澤山記念館講堂



2013年6月10日教文館より発行

12月21日(土)の午後3時40分から4時40分まで、クリスマススイブニング2013「クリスマス礼拝」をフランス文学者・詩人の川田靖子先生をお招きし、「クリスマスよるこび」と題してお話しいただいた。礼拝の一番最初に早稲田摂陵高等学校のウインドバンドの力強いアンサンブル演奏があった。

川田先生のお話の一番最後に「皆様、今日、私達はイエス様の誕生を、



クリスマススイブニング2013
 「クリスマス礼拝」にフランス文学者・
 詩人の川田靖子先生をお招きして

ただひたすらに喜ぶことにいたしました。キリストの誕生によって多くの人々は救われ、間違った考えに惑わされていたローマは400年後に滅びてしまうのです。一方、キリスト教は脈々と現在まで続いて行きます。キリスト教の永い命をお祝いいたしましょう。現在の殺伐たる世の中に、キリスト教の教えは益々、必要であると、祈り、炎を燃やし続けなければなりません」と、力強く締めくくられた。御陰様でチャペルはよるこびに満ち溢れた「クリスマス礼拝」であった。



2013年(平成25年度) 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きありがとうございます。今年下記の下記の東日本大震災の被災地・施設・団体に、集めた献金・献品を送付致しました。皆さまのご協力に感謝しつつご報告申し上げます。

《献金送付先》	
前期献金	
・東日本大震災の被災地	15,000円
・パンダ園	15,000円
・止揚学園	15,000円
・救世軍希望館	15,000円
・大阪水上隣保館	15,000円
・レバノンホーム	15,000円
・振込手数料：郵便局	360円
合計	90,360円
後期クリスマス献金	
・東日本大震災の被災地	19,000円
・救世軍希望館	19,000円
・レバノンホーム	19,000円
・止揚学園	19,000円
・釜ヶ崎医療連絡会議	19,000円
・振込手数料：郵便局	240円
合計	95,240円
総合計	185,600円

- 《献品》・【日本キリスト教海外医療協力へ】
 海外国内切手 約1kg370g、外国紙幣・コイン 650g
- ・【救世軍希望館へ持参*炊き出し用として】食料品 他
 切り餅 3袋 (700g入×3袋)
 味付けおむすび海苔 2個 (8袋詰め1個・3袋詰め1個)
 味付け海苔(円形)各9個
 梅干し6個(蜂蜜漬け1個・しそ漬け5個)
 米1kg605g

川田靖子先生のお母様、松村恵先生は梅花中学・高校で16年間、数学を教えておられた。この日、川田先生は、フランス在住のバリ管弦楽団ヴィオラ奏者として活躍されているお嬢様の千帆子様(写真・右から2人目)とご一緒に来校され、澤山記念館のチャペルや展示を御覧になり、梅花学園の発展を大変喜ばれていた。

礼拝後に、チャペル横の控え室で懇親会を開いた。懇親会では、千帆子様、早稲田摂陵高等学校のウインドバンドの皆さんの力強い演奏を聴かれ「感動して涙が出そうになっ

た」と仰っていたのが印象的であった。資料室職員のア田氏が、古いアルバムの中、梅花高校教員時代の松村恵先生のお写真を探し出され、そのコピーを、お渡しすると、お二人は目を細めて御覧になり、大層感激されていた。

川田靖子先生は、ご自分の著書『我はまことの葡萄の木』を本学の図書館と宗教部にご寄贈くださった。この御本の中には三代のキリスト教家族の貴重な経験が書かれている。川田靖子先生の奨励は宗教部にてCDを貸し出ししている。希望される方は宗教部までお問い合わせください。

〔知能に重い障がいを持つ方々の施設〕 「止揚学園を訪問して」

心理学科4年生 荒木美恵

8月19日(月)に止揚学園を訪問させていただいた。今回で三度目になるが、はじめてのときは、重度の知的障がいを持つ方々の施設訪問ということでも少し緊張気味であった。学園に到着し、最初に驚かされたのは、カラフルで、斬新で、奇抜なデザインが施された、明るくて清潔さに溢れた学園であったことだ。そして、学園の入所者の方々の表情がとても穏やかであり、行動も落ち着かれています。自由に自然体で生活されている様子に、たちまち緊張が解け、自然と笑顔で挨拶ができるような、心のゆとりを得ることができた。また、職員の方々も笑顔が絶えず、皆さんおしゃやれで、心身ともに洗刺としておられる様子が非常に印象的であった。このような環境の中で自由な発想で創作された作品は、観る者を楽しみ気分させてくれるものであった。作品の鑑賞で心にエネルギーをいただいた後、職員の方の手作りの昼食をみんなで一緒に美味しくいただき、歌を歌い、踊り、楽しいひとときを過ごさせていた

いた。この後、創設者の福井達雨先生とお話をさせていただく機会が設けられ、印象的なお話を伺うことができた。中でも「重度の知的障がいを持つ入所者の方々に対し、社会生活ができるようにさまざまなトレーニングをしてきたが、できることが増えても彼らから笑顔が消えたことに気付き、彼らを主体とした対応に変えてから、彼らの人間としての成長がはじまり、僕たちも成長した」とおっしゃったことは、非常に興味深かった。障がいを特性として捉え、人権が守られた中で生活ができる数少ない居場所として止揚学園は存在しているといふことを実感し、今回も新たな課題をいただいた貴重な訪問であった。



小梅祭 学生礼拝 チャレンジ&エレガンス 「みんなが知っているピアノメロディー」

日本文化創造学科3年生 中嶋 楓



11月10日
(日) 午前
11時から11
時30分迄、
澤山記念館
チャペルに

(作詞 宮藤官九郎
作曲 大友良英 Sachiko M)
4. TBS系日曜劇場「半沢直樹」
「テーマ・オブ・半沢直樹」
(服部隆之)

て「学生礼拝」を開催した。司会は日本語表現学科1年の小山内美美子さん(下段写真・右)。「みんなが知っているピアノメロディー」と題して、お話しとピアノ演奏を日本文化創造学科3年生の中嶋楓さん(下段写真・左)にしていたいただいた。ピアノ演奏曲目は左記のとおりです。

ピアノ演奏曲目

1. TBSテレビ金曜ドラマ『もう一度君に、プロポーズ』メインテーマ(村松崇継)
2. NHK 土曜ドラマ『水壁』主題歌「彼方の光」(リベラ)
(作詞 Robert Prizeman
作曲 村松崇継)
3. NHK連続ドラマ小説「あまちゃん」挿入歌「潮騒のメモリー」

中嶋 楓さんによる4曲の美しいピアノ演奏がありました。中嶋さんのお話にもありましたが、ドラマも、表舞台にたつ人々と作曲や作詞などで陰で支える人々がいて、お互いが支え合ってひとつの良作になっていくのですね。「学生礼拝」も多くの方々にお支えいただき、チャペルいっぱい美しいハーモニーを響かせているのです。司会的小山内美美子さん、お話しとピアノ演奏を担当の中嶋 楓さん、そしてご参加頂きました。先生、教職員の方々に感謝申し上げます。



宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー（礼拝）を守ることに重点をおいた一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。

4月 入学式

4月1日（月） 梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部は午後1時より、澤山記念館講堂で、入学式が行われた。



聖書を読み祈る「オリーブのつどい」の開催

4月8日（月）より、毎週講義期間中の火曜日に教職員の「オリーブのつどい」、水曜日は学生の「オリーブのつどい」をお昼休みにチャペル北側控え室で開催した。火曜日は旧約聖書創世記から、水曜日は新約聖書 マルコによる福音書を輪読し、祈りの時間を持った。

「メデイテーション・アワー 黙想の時間」と「アロマの部屋」の開催

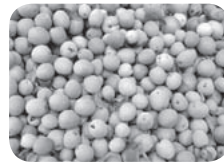
澤山記念館チャペルで講義期間中の火曜日・金曜日のお昼休みに静かに音楽を聴きながら祈りの時間と空間を持つ「メデイテーション・アワー 黙想の時間」

を設けた。

また、チャペル南側では講義期間中のお昼休み火曜日と金曜日に「アロマの部屋」を設けた。「アロマの部屋」は週ごとに香りが変わり、読書すること（持ち込みも可能）も出来る。

6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。売上金は前期献金に充当。毎年、5月末～6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月3日（月）～6月5日（水）に収穫した。売上金の43,550円は、前期献金に充当。



身障者による美術作品の販売

宗教部では6月と11月に「口と足で描く芸術家協会・美術作品」の注文を受け付け、全額、同協会に納めている。この収益は障がい者の生活費、奨学金として使われる。6月の購入金額は、26,310円。11月の購入金額は、33,990円。合計 60,300円。

8月 「止揚学園」訪問

今年、8月19日（月）に、教職員、学生の合計4名で訪問した。（11頁参照）



11月 小梅祭「学生礼拝」・映画「オーケストラ！」上映会

11月10日（日）午前11時より、「学生礼拝」をチャペルで行った。お話しは「みんなが知っているピアノメロデー」と題して、女子大学日本文化創造学科3年の中嶋 楓さんにお話しして頂いた（11頁参照）。「潮騒のメモリー」他、4曲のピアノ演奏もあった。司会は短大部日本語表現科1年の小山内美美子さん。演奏はオルガニストの水間 泉先生。また、午後1時から、F棟702教室で映画「オーケストラ！」を上映した。

クリスマス・ツリー点灯式

11月14日（木）午後5時50分～6時5分まで、クリスマス・ツリー点灯式を澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下で行った。日本文化創造学科3年中嶋 楓さんによる前奏で点灯式は始まった。女子大学こども学科2年の諸藤鈴央花さんの聖書朗読の後、宗教主事 稲山聖修先生の「クリスマスよろこび」と題してお話があった。そして「3. 2. 1. 点灯！」の合図のもと学長・宗教部長の長澤修一先生に点灯して頂いた。最後にツリーの下で、学生・教職員有志の聖歌隊「リトル ハーモニー・オリーブ」の皆さんを中心に「もみの木」を皆で合唱した。



スクールバスの中から沢山の学生に見守られた点灯式であった。

12月 クリスマス礼拝

12月16日（月）午後1時より大学（看護学部・食文化学部）短期大学のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。キャンデル点灯は、生活科学科1年新本倫子さん、藤田光里さんにして頂いた。聖書朗読は日本語表現科1年の小山内美美子さんと森山愛さん。短期大学部「音楽B」選択履修生の11名の皆さんによる合唱があった。日本基督教団 千里聖愛教会牧師の中井大介先生の「クリスマスよろこび」と題したメッセージの後、最後に梅花中学・高校の卒業生植田加奈子先生・植田奈津子先生による独唱とピアノ伴奏があった当日は約90名の出席者があった。



12月19日（木）午後1時より大学（心理こども学部・文化表現学部）のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。キャンデル点灯は、心理学科1年青木ともみさん、こども学科1年高谷栄央さんにして頂いた。聖書朗読は心理学科1年の木下一歩さんと日本文化創造学科1年の芝 真生子さん。梅花学園同窓会コーラスグループ「エコー梅花」の皆さんによる合唱があった。日本基督教団 千里聖愛教会牧師の中井大介先生の「クリスマスよろこび」と題したメッセージの後、最後

に梅花中学・高校の卒業生植田加奈子先生・植田奈津子先生による独唱とピアノ伴奏があった当日は約100名の出席者があった。

清明寮クリスマス・卒寮礼拝の奨励

12月19日(木)午後7時から、学生部主催のクリスマス・卒寮礼拝を稲山聖修先生が担当された。

クリスマスイブニング2013
クリスマス礼拝・音と光のハーモニーの開催

12月21日(土)クリスマスイブニング2013が開催された。午後3時40分から午後4時40分までの間、澤山記念館チャペルで、クリスマス礼拝が行われた。奏楽はオルガニストの水間泉先生。早稲田摂陵高等学校ウインドバンドのアンサンブル演奏の後、フランス文学者・詩人の川田靖子先生から「クリスマスよろこび」と題して奨励があった。今年もチャペルに大勢の方々に来て頂いた。(10頁参照)

午後5時から5時20分まで、学生会館前で音と光のハーモニーが開催された。本学宗教主事の稲山聖修先生の「クリスマスよろこび」と題してメッセージがあった。早稲田摂陵高等学校ウインドバンドによる「クリスマス・キャロル・ファンタジー」の演奏があった。

1月
創立136周年記念礼拝・澤山保羅先生墓前祈祷会

1月18日(土)午前10時から澤山記

念館チャペルで創立136周年記念礼拝が開催された。本学名誉教授の大田正紀先生より「澤山保羅を継ぐ信仰と女子教育―良知・自給・愛―」と題してお話があった。出席者約150名。記念礼拝後、午後1時から大阪市設南霊園(阿倍野墓地)で、澤山保羅先生墓前祈祷会が行われた。「全ての力のみなもと」と題して、大学・大学短期大学部宗教主事稲山聖修先生のお話の後、有志による祈祷があった。最後に、学園長の原 忠和先生によるお墓の説明があった。出席者は23名。

3月
卒業礼拝

梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部の卒業礼拝は、3月17日(月)の午前9時15分より、澤山記念館講堂で開催する。奨励は日本基督教団 天満教会牧師の春名康範先生。出演は、梅花中学・高校の卒業生である栗山明弓先生のヴァイオリン演奏がある。ピアノ伴奏は梅花中学・高校の卒業生、植田奈津子先生。最後に学生・教職員による聖歌隊「リトル ハーモニー・オリーブ」の皆さんによる合唱「旅立ちの日」がある予定。



2013年度



チャペル・アワー
感想文より

共に歌おう 讃美の歌を

本校非常勤講師 堀田啓子先生
中校の時から、様々な聖歌に触れてきましたが、その聖歌ひとつひとつの背景を知ることが今までありませんでした。今回、その歌の背景をそれぞれ知ることができ、今までたくさんの方の国の人たちの歌がひとつにまとまって今があることを知ることができ、とても勉強になりました。

この時代に咲いてみようじやないの
八重の桜 新島八重先生から学ぶ
社会福祉法人・児童養護施設

救世軍希望館館長 前田徳晴先生
八重の人を思いやる優しい心や強さに感動しました。私もそのような人になるべく、目の前のことに一生懸命に打ち込み、人を大切にしたいと思えます。貴重な時間をありがとうございました。

病児から滴る、命の輝き

パンダ園保育士 佐原良子先生
お話を聴いている間、うるっとしてしま

う場面がいくつかありました。佐原先生はイエス様に背中を押されとおっしゃっていましたが、先生の行動力と考えがなければ成し得ないことだと私は思います。すばらしい生き方をされた私に感銘を受けました。すてきな絵も、こどもに親しみをもってもらえそうだと思います。ありがとうございました。

見えないもの大切さ

本学情報メディア学科
准教授 玉置好徳先生

「目に見えない障がい。そのことに関して、あまり深く考えたことがなかったので、今日のお話を聴いて、考える機会ができて、とてもよかったです。目に見えない」と、中々気がつきにくいこと。それを考えた機会がある、なで大きくちがうと思うので、これからは、バッチをつけた人に出会う機会があったら、何かもしお困りなら、手助けができればいいなと思いました。

自分の得や都合を捨てて

止揚学園リーダー 福井達雨先生・
止揚シスターズ

福井先生の話を聞いて今までの自分を振り返ると、本当に自分は罪深い存在だなあと思いました。いつも自分の都合が悪くなると逃げ出してしまいます。それはやはり目に見えるものにとらわれているからだと思いました。目に見えないものを信じられない自分が嫌だと思いました。これからは少しずつ目に見えないものを信じていけるようにしたいです。止揚シスターズの西竹先生、中山先生、素敵な歌声、演奏をありがとうございました！とても癒されました。

新しいあなたがそこにいる

日本基督教団 大阪九條教会

牧師 津田一夫先生

普段からのコミュニケーションが大切なんだと思います。相手から言われるのを待つばかりでなく自分から言うこと、あいさつをすることが大切だとあらためて知ることができました。あなたが大切なんだと思いがながら人と会話できたら良いなと思いました。

澤山保羅先生と彼をめぐる人々

本学園学園長 原 忠和先生

キリスト教で習った内容より少し詳しくかっように思いました。中学ではじめてスクール・モットーをきいてから、それが心にかけてはいますが、まだまだできていないと感じます。建学理念、スクール・モットー、授業、すべてに魅力を感じてこの学校を選んだので、できるようにになりたいです。

花の日礼拝 与えられたもの

ヴァイオリニスト 栗山明弓先生

ヴァイオリンはとっても美しい演奏でもっと聴きたいと思いました。また、先生のお話で、「自分の嫌なところ、短所も含めてすべてが神様から与えられ、よしとされているもの」とあり、それを返していかなければならないとのこと、そういう考え方は一切思いつかず、考えたことがなかったの、なんだか新鮮でした。

オルガン音楽を聴く

オルガンニスト 所 俊夫先生

時には強く、時には優しい調べで、とてもすてきなオルガンの演奏を聴かせていただきました。音楽を聴いてゆったりと心を落ち着ける時間があるのは、とても幸せなこと

とだと思えますので、このような時間が設けられていることに感謝したいと思います。

小指の痛み

日本基督教団 梅花教会

牧師 後藤 聡先生

「戦争」というものは、深く見知った直後は心を痛め、心に留めておけるのですが、時間が経つにつれ、それは風化していつてもいいので心に留めておくことができるよう、心がけたいと思います。

絶望するな

日本基督教団 磐上教会

牧師 成田いっし先生

非常に深い話だなと思いました。ルカによる福音書の青年も、今日話されていた小説の主人公も脆く、本当は誰かに助けしてほしい気持ちと必死に虚勢のようなものを張っているところがあつて、強い部分は強い、しかし弱い所を何とかかっこうつけて隠したがる部分もあるので、考えさせられました。

主の祈り

本学宗教部職員 奥西まゆみ先生

「私」という詩はとても自分のことを良く考える良い詩でした。あたりまえのことがあたりまえになるのにはとても長い月日と人の努力によつてできたんだと思いません。感謝することを常に忘れてはいけません。ありがとうございました。

父なる神の残像

福音交友会 岸和田東聖書教会

ピアノニスト・牧師 中野博喜先生
ピアノの演奏にすこく癒されました。放

蕩息子の話を読んで、普通の物語と思つていましたが、ここに登場する父の姿は神様であるとわかると、神の愛を感じることができました。私だつたらこの息子を許しません、神様はお許しください大きな愛があるんだと気付かされました。

神様のまなざし

本学宗教主事 稲山聖修先生

「ノア」という言葉がなぐさめという意味だとはじめて知りました。普段は気づかなかつたりしますが自分が弱つていたり困つていたりすると必ず近くになぐさめて、はげましてくれる人がいます。私も他の人が困つているときは、そばに行つてなぐさめる存在になりたいです。

こんな美しい朝に

瞬きの詩人・水野源三の世界

朗読家 馬場精子先生

脳性マヒによつて首から下が動かせず、言葉を発することができない状態であつた水野源三さんが、キリスト教に触れたことで救われ、絶望していた気持ちから一変、病気になることに感謝し、病気になるならなければキリストの愛に触れることができなかつただろう、と前を向かれたことは、とてもすばらしいことだと思いました。そしてその生涯を終えるとき、自身の世話をしてくれた人々に感謝し、素晴らしい人生だつたと振り返れたことは何物にもかえがたい大切なものであつただろうと思ひます。

特別礼拝 女性と仕事

ファツションデザイナー

コシノヒロコ先生

「ファツションショーなども全てはお祈りから始まる」というコシノさんのお言葉

にひかれました。今、自分にしかできないこと自分に向いているもの、個性はまだ明確になつていない。将来のことなど決まつていないが、今の自分の行いは神様がみてること信じ、コシノさんのように何歳になつても挑戦しつづけ、自分のやりたいことを自信を持ってできる人間になりたいと思ひました。

あなたの家に泊まりたい

日本基督教団 土師教会

詩人・牧師 森田 進先生

ザアカイのように悔い改め、善人になりたいと思つています。日本はエリコと同じ立場の地であるという言葉に、ハッとさせられたばかりだったので、そこにもハッとしました。

神様のご計画

京都外国語大学

准教授 長濱拓磨先生

失敗は次につながるの、大切にしたいと思ひます。やっぱりそこでくじけるんじやなくて、努力することで成長するなと思ひました。神様に計画してもらつたものだと思ひてがんばります。失敗をもつとしていつて自分を変りたいです。

人間関係

日本バプテスト同盟 我孫子バプテスト教会

牧師 熊合 稔先生

自分の価値、存在していいのかと思ひはじめると、自分が嫌になり、ふさぎこんでしまうことがありますが、今日のお話で、このような私がいとも神様は良しとしてくれると、感ずることが出来ました。地球に生きて、友人、家族等と一緒にいれること

が素晴らしいことだと改めて感じましたし、忘れてはいけないと思いました。

梅花学園の歴史を創った3人の
エリガントな人々

本学総務部付資料室

職員 安田行秀先生

今、自分が通っている「梅花」を、現在の
ように整え、豊かにして下さった方たちの
ことが知れて、良かったと思います。学
ぶところが「いいのは、まさに一人や数人の
力では作り出せない、たくさんの人々が関
わり、尽くして下さったからこそ、今のわ
たしたちが通う「梅花」は存在するのだと、
改めて思いました。

愛の490倍返し

日本基督教団 能登川教会

牧師 谷 香澄先生

自分が失敗したときは、「たまたま見落
としてしまったものだから、許して欲しい」
と思ひ、他人が失敗したときは、「いい加
減ちゃんとして」と思つてしまいます。そ
うではなく、自分を誰かが許して(赦して)
くれたように、他人にも寛容な心で接する
ことができればいいのに、と思ひました。

与えられる人になりましょう

本学食文化学部

助教 北村伊都子先生

恵まれてるからこそ、多くを求めてし
まう。氣をつけないと思ひます。自らの恵
みに氣がつき、人に与えられる人になるた
め、自分のできることを考えながら生きた
いと思ひます。文句や不平を言う前に、自
分がいかに幸せかをみつめ直し、人のため
に生きたいです。心のくもりを取り払い、
美しい心で人と接したいと思ひます。

死を越えて

本学英语コミュニケーションシヨン学科
教授 此枝洋子先生

寝たきりや、弱っている人でもちゃんと
「耳」は聞こえているんだと思ひました。
私達は生まれてきたかぎり死ななければな
らない。それでも「死」は決してそこで終
わりではないことを知りました。死を越え
ても私達は神と共にいるのだと思ひました。

神の力の働く場所

日本基督教団 東美教会

シガングライター 牧師 陣内大蔵先生

全体を通して、いつもとは違うライブ、
またはコンサート調なチャペル・アワーで
あり、とても楽しく、また新鮮でした。内
容は、先生のお話の中であつた「被災者の
方の気持ち」が最も心に残つております。
直接被害を受けていない私たちは、「あれ
から〇年経つた」などのニュースを耳にし、
もうそんなに経つたのかと、ついに他人事
のように考へてしまいます。そうではなく、
少しでもそうした被害があつたというこ
とを、心に留めておけるよう、常に心がけて
いきたいものです。

汝を愛するよう隣人を愛せよ

バーンアウトにならないために

福島病院医療ソーシャルワーカー
児嶋むつみ先生

脱獄犯のお話を聞いたとき、インソップの
北風と太陽を想ひ浮かべましたが、聖書の
言葉につながるのかと納得しました。汝
を愛するよう隣人を愛する、はどうして
自分を愛さなければいけないのか疑問に
思つていましたが、自分を理解できないと
本当に他人に共感することはできないんだ
なと謎が解けました。

癒しと活力、歌の力

テノール歌手 竹内直紀先生

歌の力は測り知れない程のパワーを持
っているのだと思ひました。竹内先生の歌
声も素晴らしく、こんなに間近にプロのテ
ノール歌手の方の歌を聴くことができても
嬉しかつたです。

確かな命

日本基督教団 大阪西淀川教会

牧師 森口あおい先生

常日頃感じることもある。人を抑圧する
「力」の存在と、それによって人が人とし
て生きることをやめ、「誰か別の人の人生
を生きている」という状態、またそれによつ
て失われる「確かな命」の存在など、自分
が自分として確かにそこに存在し、確かな
命を生きているということが、どれほど大切で
どれほど難しいかが身にしみてわかりまし
た。

なぜわたしでなくあなたが

本学名誉教授 大田正紀先生

自分が何かしたいと思う時には必ず壁に
ぶつかる時があります。私もそういう時が
あります。いつもそういう時はあきらめて
しまいがちになっていますが、神様に祈り、
最善を尽くすようにしたいと思ひました。
神様の導きに従う重要さを知りました。

価値観の転換

日本基督教団 摂津富田教会

牧師 大谷隆夫先生

ホームレスの方々のお話もそうですが、
東北の大震災を通して今、人と人が尊敬し
合つて、人と人が支えあつて生きなけれ
ばならないということをよく考えないとい
けないなと思ひました。自分だけでなく他

の人のことも考えることができたとても良
い話でした。

クリスマス礼拝
クリスマスのごび

日本基督教団 千里聖愛教会

牧師 中井大介先生

私達はよく「メリークリスマス」と言っ
てクリスマスを楽しんだりするが、こうし
ている間にも日々戦争や貧しさに苦しんで
いる人々がいることを、忘れてはいけない
と思ひました。本来クリスマスは、貧しい
人々に、一つの光としてあつたものだと思
ひました。植田加奈子先生の歌声が素晴ら
しかつたです。鳥肌が立ちました。

梅花女子大学開学50周年に向かつて

本学園理事長 小坂賢一郎先生

当時女子教育はあまりよく思われていな
かつたのにもかかわらず、設立にまでい
つた梅花はすごい学校なんだと思つた。
多くの人達に支えられた結果、今の梅花が
あるのだと思つた。梅花の卒業生と胸を
張つて言えるようになるためにも、よりよ
い梅花にしていかなければならないと思
ひました。

子ども達のおいたちと向き合いながら

社会福祉法人 児童養護施設
レバノンホーム施設長 栗本一美先生

子どもの数は年々減つているのだから、児童
養護施設の数は年々増えているのだと思つ
た。不景気が関係しているのかなと思つた。
レバノンホームが力を入れている「自分を
守ること」はとてもよいことだと思つた。
一人立ちしても自分が守れなければ意味な
いからです。これから、虐待されている子
が減ればよいと思つた。

2013 (平成 25) 年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月曜日 3 講時 女子大学 看護学部・食文化学部 短期大学部 生活科学科・英語コミュニケーション学科・日本語表現科			
月	日	奨励題	奨励者
4	8	チャペル・アワーによるこそ	稲山聖修
	15	共に歌おう 讃美の歌を	堀田啓子
	22	この時代に咲いてみようじゃないの “八重の桜” 新島八重先生から学ぶ	前田徳晴
	29	病児から滴る“命の輝き”	佐原良子
5	13	見えないものの大切さ	玉置好徳
	20	自分の得や都合を捨てて	福井達雨 止揚スチーズ
	27	新しいあなたがそこにいる	津田一夫
6	3	与えられたもの	栗山明弓
	10	澤山保羅先生と彼をめぐる人々	原 忠和
	17	オルガン音楽を聴く	所 俊夫
	24	神と人と、人と人と	後藤 聡
7	1	絶望するな	成田いうし
	8	父なる神の残像	中野博誉
	15	神様のまなざし	稲山聖修
	22	こんな美しい朝に ～瞬きの詩人・水野源三の世界～	馬場精子

木曜日 3 講時 女子大学 心理こども学部・文化表現学部			
月	日	奨励題	奨励者
4	11	チャペル・アワーによるこそ	稲山聖修
	18	共に歌おう 讃美の歌を	堀田啓子
	25	この時代に咲いてみようじゃないの “八重の桜” 新島八重先生から学ぶ	前田徳晴
5	2	病児から滴る“命の輝き”	佐原良子
	9	見えないものの大切さ	玉置好徳
	16	自分の得や都合を捨てて	福井達雨 止揚スチーズ
	23	主の力に包まれるまで	津田一夫
6	30	澤山保羅先生と彼をめぐる人々	原 忠和
	6	与えられたもの	栗山明弓
	13	オルガン音楽を聴く	所 俊夫
	20	小指の痛み	後藤 聡
7	27	絶望するな	成田いうし
	4	主の祈り	奥西まゆみ
	11	神様のまなざし	稲山聖修
	18	こんな美しい朝に ～瞬きの詩人・水野源三の世界～	馬場精子

9	23	旅すること	稲山聖修
	30	女性と仕事	コシノヒロコ
10	7	神様のご計画	長瀬拓磨
	14	人間関係	熊谷 稔
	21	梅花学園の歴史を創った3人の エレガントな人々	安田行秀
	28	与えられる人になりましょう	北村伊都子
11	4	死を越えて	此枝洋子
	18	喜びを告げる歌～アドヴェント、 クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
	25	癒しと活力、歌の力	竹内直紀
12	2	なぜわたしでなくあなたが	大田正紀
	9	価値観の転換	大谷隆夫
	16	クリスマスのよろこび	中井大介
1	23	梅花女子大学開学50周年に向かって	小坂賢一郎
	6	子ども達のおいたちと向き合いながら	栗本一美
1	20	眼では眼でない物語	稲山聖修

9	26	旅すること	稲山聖修
10	3	あなたの家に泊まりたい	森田 進
	10	相手（パートナー）を理解する	熊谷 稔
	17	梅花学園の歴史を創った3人の エレガントな人々	安田行秀
	24	愛の490倍返し	谷 香澄
11	31	与えられる人になりましょう	北村伊都子
	7	神の力の働く場所	陣内大蔵
	14	喜びを告げる歌～アドヴェント、 クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
	21	汝を愛するように隣人を愛せよ ～バーンアウトにならないために～	児嶋むつみ
12	28	確かな命	森口あおい
	5	なぜわたしでなくあなたが	大田正紀
	12	価値観の転換	大谷隆夫
	19	クリスマスのよろこび	中井大介
1	9	子ども達のおいたちと向き合いながら	栗本一美
	16	眼では眼でない物語	稲山聖修